

東京 IPO 特別コラム

2018年8月3日 Vol.125

右肩下がりの直近IPO銘柄に復活のチャンス

6月12日の124号配信から2か月近くも間があいてしまいましたが、今号より復活です。私事ながら体調を崩して1か月ほどの入院生活を余儀なくされてしまいました。退院後の猛暑に耐えながら本日、ようやく筆が運び始めたので本コラムを久々にお届け申し上げます。思い返すと株式相場はこの間ほとんど狭い範囲での変動に終始しており、限られた主力銘柄が強い一方で中小型銘柄を中心に頭重い展開が続いています。お祭り騒ぎのような上場後の株価変動が続くIPO銘柄も時間の経過とともに忘れ去られる銘柄も多く、極端に右肩下がり演じる銘柄も散見されます。

IPO銘柄には公開価格から初値、その後の高値、安値と続く一定のパターンがありますが、よほどの業績の伸びや好材料がないと、大半はしばらくすると忘れられて放置され、売り物を消化できずに悪材料が特段出ない中でも右肩下がり演じるケースが増えて参ります。次々に登場するIPO銘柄に投資家の関心はうつろい易く、よくもまあここまで投資家が売ってくるなどと言った水準までついてくることもあります。需給のなせる業と言えますが、最近の値動きでは引けにかけて安値をつけにくるやや悪質な株価操作まがいの銘柄も散見されます。とりわけここ数年の中でIPOしてきた銘柄で特段のIRに努めてこなかった企業の株価には投資家の諦めのような売りが見られます。

例えば、以前本コラムで取り上げたことのある銘柄でズーム(6694)と言う銘柄があります。同社は2017年3月にJASDAQ市場に1520円という公開価格でIPOしましたが、IPO後に1420円と言う安値をつけた後、年末にかけ3540円まで株価は大きく上昇したのですが、その後は約7か月もの間下落トレンドを継続しています。同社ではIRにこれから注力したいとの意向をもっていますので、業績が安定して出る限りは、いずれは反転上昇の可能性を秘めていると考えられます。輸出型のズームに限らず第1四半期業績の進捗率が高かったLIXILピバ(3564)やシー・エス・ランバー(7808)といった昨年の内需系IPO銘柄にも株価の低迷が見られるほか、本年初めにIPOしてきたMマート(4380)、ジェイテックコーポレーション(3446)、SERIOホールディングス(6567)といった銘柄も初値人気後は関心が薄れており、高値からはいずれも半値以下の水準に株価は低迷しています。こうしたIPO銘柄の値動きがどこで下げ止まるかは市場の潮流次第。再びマザーズ銘柄も含めた中小型銘柄に物色の矛先が向かうのか、銘柄ごとの四半期業績推移など踏まえて投資チャンスが醸成されつつあると筆者は見ていますが、ここは現状の潮流にあまり逆らわず、しっかりと時が来るのを待つ姿勢を基本的には持っておきたいところ。いつまでも右肩下がりではIPOした意味もなく企業としてもIRへの注力を始め、打つべき施策はある筈。株価の下落をいつまでも眺めてばかりいないで大いに自社のPRに努めて頂く中で復活のチャンスも見出せると考えられます。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)